

令和4年度 第2回前橋市児童文化センター運営委員会

日時：令和5年2月8日（水）

午後3時開会

会場：児童文化センター1階ホール

進行：青少年課長

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ 教育長 吉川 真由美
- 3 議 事
 - (1) 報告及び協議
 - ①令和4年度事業中間報告について
 - ②令和5年度の事業運営（案）について
 - (2) プラネタリウム試写（午後3時30分～）
 - (3) その他（意見交換）
- 4 閉 会 （午後4時30分予定）

令和4年度（令和4年12月現在）

事業報告

－ 「学び」と「遊び」の活動交流拠点 －



前橋市児童文化センター

令和4年度 事業の概要

I 運営目標

子供たちの文化活動の中核として、科学的な原理・法則や環境保全について総合的・体験的に学ぶ活動や、文化芸術に触れたり自己表現をしたりする活動、交通安全教育、多様な体験や交流活動の機会の充実等に係る事業などを行い、多様な人とかかわりながら、個性を生かし、夢に向かって主体的・創造的に活動する子供の育成を目指す。

II 本年度の重点施策

1 交通・天文・環境教室の充実

(1) 交通教室の充実

[目標・ねらい]

- 全小学校4・6年生及び希望する中学校・特別支援学校を対象に自転車教室を実施することにより、交通事故を防止しようとする態度や能力を育てる。
- 幼稚園・保育所(園)・特別支援学校等を対象に歩行教室を実施することにより、交通事故を防止しようとする態度や能力を育てる。

[今年度の重点]

- 小学校の教室では、自転車に不慣れな児童のために、練習の場を設定し、引率者が指導できるように、乗り方の助言や職員の配置の工夫を継続する。また、充実した教室を実施するために、指導事項の共有をさらに深める。
- 自転車に乗る経験が少ない児童のために「親子自転車乗り練習会」を開催し、自転車操作の習熟を図る。
- 幼稚園等の教室では、年長児を対象とし、小学校入学後の安全な登下校のために、道路の安全な歩行に重点を置いて実施していく。
- 新型コロナ拡大防止のための対策を継続するとともに、感染症の状況に応じた教室の実施に向けて取り組んでいく。

【実施状況】

- ・小学校 : のべ93校184回, 5,366人
- ・中学校・特別支援学校 : 3校5回, 53人
- ・幼稚園・保育所 : 1月～3月に実施予定

◇交通教室の評価(事後調査)

- (1) 4年生 : 学習内容が、学校のねらいに即したものになっていた 98%(47/48)
交通安全に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった 100%(48/48)
- (2) 6年生 : 学習内容が、学校のねらいに即したものになっていた 100%(45/45)
交通安全に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった 100%(45/45)

(2) 天文教室の充実

[目標・ねらい]

- プラネタリウムの機能を活用した天文教室を実施することにより、子供たちの宇宙や天体への理解を深め、観察への意欲を高める。
- 実際に天体を観察する移動天文教室を実施することにより、子供たち及び保護者の天体に関する興味・関心を高める。

[今年度の重点]

- 小学校の教室では、事前打ち合わせ等を活用し、学校ごとの理科の授業の現状把握に努め、実態に応じた内容で展開していく。また、授業とのつながりをもたせるために、理科専科の参加を促す。さらに、学校における学習計画についての相談や助言を行うとともに、観察に必要な資料の改善・提供など、児童が主体的に取り組む天文学習実施のための支援を継続する。
- 幼稚園等の教室では、Web ページでの情報提供や事前の打合せ等を行い、適切な番組の選択や実態に応じた星空解説に努める。
- 移動天文教室では、実際の天体観察を通して、宇宙や天体への興味・関心の向上を図るとともに、学校における理科学習の振り返りにつなげられるように努める。
- 新型コロナ拡大防止のための対策を継続するとともに、感染症の状況に応じた教室の実施に向けて取り組んでいく。

【実施状況】

① 学習投影

- ・小学校 : のべ92校 178回, 5,169人
- ・中学校・特別支援学校 : 実施なし
- ・幼稚園, 保育所 : 1月～3月に実施予定

◇天文教室の評価 (事後調査)

- 4年生 : 学習内容が, 学校のねらいに即したものになっていた 100%(47/47)
天文に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった 100%(47/47)
- 6年生 : 学習内容が, 学校のねらいに即したものになっていた 100%(45/45)
天文に対する児童の意識・関心・意欲・態度が高まった 98%(44/45)

② 移動天文教室

- ・小学校 : 9校予定, 413人 (3校実施, 4校中止, 1～2月に2校予定)

(3) 環境教室の充実

[目標・ねらい]

- 児童文化センターの自然や施設, 学校の環境を活用した主体的・対話的な環境教室を実施することにより, 学校における環境教育の充実を図る。

[今年度の重点]

- 新型コロナの状況に応じて, 児童文化センターでの環境教室の他, 出張環境教室を行うことを想定しながら柔軟に対応することとしている。
- 既存の学習プログラムを出張教室用に改編しながら, 学校の環境や実情に応じたものを選択できるようにする。
- 学校の環境教育との連携, 外部機関との連携をより強化する。
 - ・各学校の環境教育の計画に児童文化センターの環境教室の位置づけを引き続き依頼し, 連携した環境教育を推進するとともに, 各学校のニーズに応じた環境教室を実施する。
 - ・学校教育課と連携し, 環境教育主任会への情報提供や教育内容に関わる支援に努める。
 - ・市環境森林課と連携し, 専門的な知識をもった講師として担当職員を招聘し, 深い学びを実現していく。
- 環境教室の内容を家庭に周知するとともに, 家族と一緒に環境を考えられる教材の開発をさらに進める。

【実施状況】

① 環境教室

小学校：46校（89回）実施，2,536人

実施したプログラム	実施校数	実施回数（学級数）
「空気のごれを調べよう（窒素酸化物調査）」	13校	27回
「水のごれを調べよう（COD調査）」	4校	5回
「絶命危惧種のすんでいる環境を調べよう（守ろう！前橋のメダカ）」	25校	50回
「自然エネルギーを生かした発電の仕組みを調べよう（発電方法等）」	4校	7回

◇環境教室の評価（事後調査）

5年生：児童の環境に対する意識・関心・態度等を高めた 100%（46/46）

自校の環境教育の充実につながった 100%（46/46）

② 学校への環境教育支援等

小学校5校（野生メダカの提供：2校 試薬提供と学習展開や教育課程の支援：2校
親子環境教室講師：1校）

③ 情報提供

前橋市初任者研修「児童文化センターにおける取組」（11月15日）

環境教育主任会「児童文化センターの環境教室について」（1月25日）

2 自然体験活動の充実

[目標・ねらい]

- 効果的な活動例の提示や相談などを行うことにより，学校等の児童生徒主体の自然体験活動を支援する。
- 人材の紹介や自然体験活動講師の派遣等を行うことにより，学校や林間学校における自然体験活動の推進を図る。
- 教員に対する自然体験活動の研修を実施することにより，自然体験活動の充実を図る。

[今年度の重点]

- 学校等における自然体験活動推進のため，担当職員が事前・事後も含めた体験活動の進め方や有効活用について助言する。また，学校が実際に活動している場所に足を運び，講師と連携しながら児童生徒主体の活動のあり方などを話し合ったり，児童生徒との接し方について具体的なアドバイスを行ったりするなど，積極的なコーディネートを進める。
- 指導の展開事例を講師とともに再検討し，より児童生徒が主体的に活動に取り組むことができるよう内容の充実をさらに図る。
- 自然体験活動の講師と連携し，作成した「森のパワーを探してみよう」（赤城少年自然の家・北毛青少年自然の家・雨天時）を活用した実践事例を蓄積し，内容の評価と検証を行うとともに，榛名山等でも展開できるプログラムの開発を進める。

【実施状況】

① 学校対象

- 小中学校林間学校

小学校第5学年および中学校第1学年 実施時期：5月～11月

- 小中学生自然体験活動支援事業

小中学校が行う自然体験活動に対する講師紹介と講師派遣および講師謝礼支払

- ・令和元年度実績：小学校 39 校，中学校 17 校（林間学校，その他の自然体験活動）
- ・令和2年度実績：小学校 30 校，中学校 2 校（一日自然体験活動）
- ・令和3年度実績：小学校 41 校，中学校 8 校（一日自然体験活動）
- ・令和4年度実績：小学校 59 校，中学校 16 校（林間学校，その他の自然体験活動）

○林間学校の使用施設

小学校：赤城少年自然の家 2 校，国立赤城青少年交流の家 30 校，その他の施設 14 校
 中学校：赤城少年自然の家 18 校，その他の施設 2 校

○尾瀬ネイチャーラーニング支援事業（群馬県主催事業）

小学校：1 校

○指導者講習会の開催（赤城少年自然の家とその周辺で計画）

- ・林間学校指導者講習会（主に中学校対象） 4 月 26 日
 自然体験活動体験，カッター実習，施設見学，自然体験活動補助事業の説明等
- ・小学校自然体験活動指導者講習会（小学校対象） 8 月 19 日
 ネイチャーゲーム実習，自然体験活動体験，学習指導要領への位置づけと意義，実施計画案の作成（講義と実習），自然体験活動補助事業の説明等

○赤城山登山ルート紹介ビデオの制作と配信（安全な登山のために）

② 一般市民対象

○自然体験活動推進事業（委託）

赤城山の自然環境を活用した体験活動の推進

- ・自然観察会，ネイチャークラフト等（ぐんま緑のインタープリター協会） 3 回実施
- ・赤城山親子トレッキング等（ぐんま山森自然楽校） 4 回実施

★ 環境教育関連マップ作成

3 科学・文化芸術教育活動の充実

(1) クラブ活動の充実

[目標・ねらい]

- 科学・文化芸術に関する様々なクラブ（合唱団・発明・演劇・宇宙・ジュニアオーケストラ・環境冒険隊）を実施することにより，子供たちの個性や能力を伸ばし，人と関わる力を育てる。

[今年度の重点]

- 指導を通して，講師として指導に当たる教員の資質向上も同時にねらっていることから，学校教育課や総合教育プラザとも連携しながら，今後も新しい講師を増やす努力を続けていく。また一般市民の講師についても同様の課題があるため，人材の開拓に努めていく。
- 新型コロナ感染防止のため，少人数・短時間で行うなどの配慮をした上で，今後もクラブ活動が子供たちの豊かな体験の場となり，自らの成長を実感できる主体的な活動となるよう，活動内容の精選や改善を図る。
- クラブの活動が土日であり，複数のクラブが同時に多くの教室を用いて活動を行うため，計画的に活動内容や場所等を相談するなど職員相互の連携を図り進めていく。

【実施状況】

クラブ名	クラブ員数	実施回数・日	主な内容
合唱団	小1～中2 37人	毎週日曜日 33回実施 (42回予定)	・同声2部合唱，3部合唱の練習 ・感染状況に応じ、少人数短時間の練習 ※2月11日(土)定期演奏会実施予定

少年少女 発明クラブ	小4～中2 前期23人 後期17人	隔週日曜日 16回実施 (21回予定)	・発明の基礎学習 ・発明考案作品製作 ・前橋市発明考案展・群馬県創意工夫展等への出品 ※公開発明教室の実施(年3回)
演劇クラブ	小1～中3 12人	月2～4回 20回実施 (31回予定)	・発声練習, ダンス練習等 ・児童文化センターでの発表(10月) ・プラネタリウム番組制作に声優として参加
宇宙クラブ	小4～中3 11人	主に土曜日 7回実施 (10回予定)	・天体望遠鏡を用いた観測会の実施及び星や星座の学習 ・プラネタリウムなどの施設設備を利用した天文学の基礎的な学習 ・市民天文教室との同時開催及び所外施設の利用(ぐんま天文台)
ジュニア オーケストラ	小1～高3 62人	隔週日曜日 19回実施 (28回予定)	・ヴァイオリン楽器演奏の基礎, 基本 ・5グループに分かれての練習, 合奏 ※2月12日(日)定期演奏会実施予定
環境冒険隊	小4～小6 12人	月2～3回 土曜日 15回実施 (18回予定)	・自然の中での遊び, 生き物調べ, 自然観察, 環境調査 専門家を講師に招いての体験活動 ・県エコクラブ学習会への参加予定(1/14児童文化センター)

(2) 多様な科学・文化芸術に関する教室の充実

[目標・ねらい]

○科学・文化芸術に関する教室(わくわく教室、夏季教室等)を実施することにより、子供たちの興味・関心を広げ、多様な体験活動を推進する。

[今年度の重点]

- 市民(団体)等の中には、子供たちの多様な体験活動の支援を希望し、その実現のための手立てを模索している方々もいる。そのような市民の活動を支援するという視点からも、新型コロナウイルス感染状況等も踏まえて連携・協働・情報交流を進めていきたい。また、環境教育やSDGsを視野に入れた新しい教室を検討していきたい。
- 令和2年度以降、少人数による教室を行ったことにより、個に寄り添った活動を展開することができた。今後は個への配慮を含めた上で、どのように適切な人数に戻していくかを検討していく。
- 教室の実施状況や内容を発信するためWebページの充実や閲覧の働きかけを今後も継続する。
- 新型コロナウイルス感染防止のため、少人数・短時間で行うため、今後も活動内容の精選や改善を図る。

【実施状況】

教室名	対象・人数	実施回数・日	主な内容
わくわく教室	主に小学生	13回実施 (19回予定)	・理科・造形・音楽・科学・工作を体験する教室等 (今年度は新たにtsukurunを体験しよう、プログラミングでドローンをとばそう等を実施)
夏季教室	主に小学生	夏季休業中 10回実施 (10回予定)	・科学・造形・文芸・歴史教室等 (光るどろだんご、空気砲、俳句、化石レプリカ等)

親子自然 体験教室	小1～小3 親子	3回実施 (3回予定)	・コロナ禍における配慮により、今年度も沢入での川遊びから覚満 淵周辺の散策とカッター実習、ピザづくりに内容を変更
こども公園 環境教室	一般市民	日曜日 4回実施 (5回予定)	・こども公園の自然（桜、野メダカ、水中微生物、植物、土等）を 活用した環境教室
地学教室	小4～中3	中止 11/5 (1回予定)	・地層や断層の観察と化石採集 ※河川増水のため中止
市民天文教室	一般市民	2回実施 (3回予定)	11月8日「皆既月食を見よう！」 12月10日「ふたご座流星群と惑星を見よう！」 2月12日「月の観察会をしよう！」
プラネタリウ ムコンサート	一般市民	実施なし	・プラネタリウムでの星に関係した音楽の生演奏 ※感染症対策のためプラネタリウムの定員を制限している
親子自転車 乗り練習会	小3以上 親子	3月予定 (3回予定)	・自転車に乗ることが不安な児童が練習する機会 ※「乗れない」から「乗れる」へ

(3) プラネタリウムの番組の制作と投影

[目標・ねらい]

- 毎月更新される自主制作プラネタリウム番組の提供と、対話型の星空解説を取り入れた質の
高いプラネタリウム投影を実施することにより、観覧者の天文への興味・関心を高める。
- 市民天文教室やプラネタリウムコンサートなど、投影の内容や方法を工夫することにより、
多くの市民が宇宙や天文現象に触れる機会を提供する。

[今年度の重点]

- 安全で安心なプラネタリウム投影の実施のため、新型コロナ拡大防止のための対応を徹底す
る。
- よりよいプラネタリウム投影に資するその時々天文現象等に関する情報交換や、時季に応
じた星座解説といった研修の時間を今後も計画的に設定することにより、投影担当スタッフ
の資質能力の向上を図る。
- システムコンピュータに加えて、プロジェクターの更新に向けて、広告収入やふるさと納税
等特定財源獲得の方法も含め、予算を中心に今後のスケジュールについて関係部署と協議を
深めていく。
- 新型コロナ拡大防止下での市民天文教室におけるプラネタリウムの活用や、プラネタリウム
コンサートの安全な実施方法について検討する。

【実施状況】

① プラネタリウムの番組制作

制作期日 5月～2月(新作9本) 5作完成

制作内容 星座のお話(星座にまつわる物語) 新作5本

天文学シリーズ(天文学に関わる基礎的な内容や話題) 新作4本

制作者 原画作成、音楽作成、台詞録音：市民・演劇クラブ団員等の協力

シナリオ作成、音声・映像編集、投影プログラム作成：センター職員

番組編集のプログラミングは業務委託

② プラネタリウムの投影とその工夫

○一般投影

- ・100人定員のところを30～35名(4/1～10/14)、50名(10/16～)程度に限定して実施。
- ・投影回数 565回, 観覧者数 12,345人

○団体投影 人数を50名までとして実施

- ・投影回数 15回, 観覧者数 466人

○プラネタリウム・チャレンジ7 7月～2月

- ・12月末現在: 3回(99人)、5回(27人)、7回(8人)

○群馬県プラネタリウム連絡協議会スタンプラリー 7月～2月

- ・県内のプラネタリウム施設9館, 天文台1館の計10か所を巡り, スタンプを収集
- ・12月末現在: 3回(31人)、5回(12人)

※例年行っていた以下の内容は, 全て新型コロナのため中止とした

○特別投影

プラネタリウムコンサート(中止), プラネタリウムデビュー(中止)

○プラネタリウムフォトジェニック(中止)

★ メディア(テレビ・ラジオ・新聞等)を用いた紹介や市教委への招待券の配布などによるプラネタリウムの周知

★ 府中市郷土の森博物館のプラネタリウム視察(8月17日): プロジェクター更新に向けた取組

4 遊びの充実と多世代交流の推進

(1) 各種イベントや体験的な事業の推進

[目標・ねらい]

- 「こども春まつり」や「こども秋まつり」「わくわくチャレンジコーナー」「冒険遊び場」などを実施することにより, 子供たちの体験活動を充実させる。

[今年度の重点]

- 各種イベントや体験的な事業等において, 子供たちの主体的活動をうながすため, 企画の見直し, 指導内容の検討・確認を図り, 講師との事前打合せを十分に実施する。
- サポートスタッフの活動意欲を活かし, 「わくわくチャレンジコーナー」での体験活動を充実させるため, 資質向上研修を継続する。
- 現在休止している個別のイベント・事業について, コロナウイルス感染症に対する安全対策を検討し, 手段を講じたうえで可能な催しから順次再開を図る。

【実施状況】

活動名	参加者数	実施日	主な内容
わくわくチャレンジコーナー	102回 4,767人	土日祝日 9:30～11:30 13:00～15:20	・サポートスタッフの発案による幼児から楽しむことができる工作 ・サポスタ研修会の継続実施により, 学生同士が高め合う研修となってきた
冒険遊びゾーン	中止	土日祝日 夏季休業中	・プレイリーダーによる指導は新型コロナのため中止
こども映画会	29回 1,472人	土曜日 14:30～15:00	・子供向けのDVDやビデオを投影した。毎週土曜日のイベントとして定着してきている

停本所	215 日 2,9038 人	毎日	<ul style="list-style-type: none"> ・「わくわくひろば」での読書推進や本の貸し出しの他、児童文化センター事業の展示や紹介など、読書指導も行った ・新型コロナのため、読み聞かせは中止
前橋市 幼小中特別 支援学校等 図画作品展	33 園所 84 点 57 校 785 点	5～7月 6～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ほしのみち「ぐるぐる美術館」に市内幼保小中特別支援学校等の幼児児童生徒の図画作品を展示 5～7月（園所）6～12月（小中特別支援学校等）
理科研究発表 会優秀作品展	17 校 24 点	12月～2月	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中特別支援学校等の理科研究発表会優秀作品を展示
こども春まつり	2,943 人	5/5 終日	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な感染症対策を施した上で「こどもの日を楽しもう」として実施
こども秋まつり	1,317 人	11/3 終日	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な感染症対策を施した上で「文化の日を楽しもう」として実施

(2) 交通安全に関わる体験の推進

[目標・ねらい]

- 足踏みカートやゴーカートを運行することにより、子供たちが遊びを通して交通ルールやマナーについて学ぶ機会を提供する。
- 芝生広場、交通学習ゾーン、大型遊具、冒険遊びゾーンなどを活用し、「学び」と「遊び」の交流拠点として、子供たちの多様な活動を保証するとともに、大人も含めた交流と活動の場としての機能を生かした運営を進める。

[今年度の重点]

- 指導員の配置により、公園利用のルールが定着してきた。今後も、歩行や足踏みカートなどで楽しく遊びながら交通ルールや社会的なマナーなどについて学べるように、引き続き指導の充実を図っていく。
- 冒険遊びゾーンに令和3年度にフィールドアスレチック「ひがしのとりで」を設置した。定期的に安全点検を実施し、学びと遊びの場としてさらなる充実を図る。
- 電気ゴーカートは平日、2台で運行しているが、今後も適正な運行やあり方について、引き続き検討を続ける。
- ゴーカート運行における新型コロナ対策の取り組みを継続して行う。

[実施状況]

種別	利用者数	実施日	主な内容等
ゴーカート	84,624 人	休日 9:00～16:30 平日 13:00～16:00 (12月は ～15:30)	<ul style="list-style-type: none"> ・コース上の安全確保の観点から最大5台で運行した(保有車両:ガソリン車10台, EV車2台) ・既存ガソリン車ボディ, EV エンジン搭載の試作車運行(9/29～12/23) ・運行業務は業者に委託している ・新型コロナ拡大防止措置として、運行台数の制限, 乗車券販売の適宜見合わせ, 車両の消毒などを講じるとともに, 社会的距離の確保や手洗いの励行について啓発を実施した
足踏みカート	42,102 人	休日 9:00～16:00 平日 自転車教室のない日・時間	<ul style="list-style-type: none"> ・対象は小学校2年生以下で, 小児は保護者がよく付き添っていた ・ゴーカート棟前の足踏みカート置き場に並び, 1周走って交代する形式で運行した ・こども公園指導員の指導と放送の効果で, マナーを守って利用する親子が多かった

(3) 市民力の活用と多世代の交流

[目標・ねらい]

- 様々なイベントや「冒険遊び場」等で、ボランティア・青少年ボランティアの活動の場を提供することにより、市民力の活用を推進し青少年の育成を図る。
- ボランティア・青少年ボランティアが交流できる組織を充実させることにより、多世代交流を推進する。

[今年度の重点]

- 今後もボランティアの会と協力し、情報を共有したり連携を図ったりすることを通して、ボランティア活動の活性化や自主的な運営の支援を行う。
- ボランティアの増員をめざし、センターでインターシップを実施した学生や視察等に訪れた学生に積極的に声かけを行う。

【実施状況】

○ボランティア活動の推進

前橋市児童文化センターボランティアの会（現在登録者数 70名）

- ・ボランティア研修会の開催 2回（8月28日、10月15日）
- ・「Go to チャレンジ！児童文化センター」実施 2回（6月11日、11月19日）

○青少年サポート事業

中高大学生のボランティア活動のサポート

- ・共愛学園前橋国際大学長期インターンシップ 4名（9月21日～1月25日）
- ・群馬県立勢多農林高等学校インターンシップ
2年生 3名（9月13日～21日 6日間）
1年生 2名（11月15日～17日 3日間）
- ・みずき中学校職場体験 3名（10月18日～20日 3日間）
- ・群馬大学共同教育学部単位ボランティア 1名（7月10日～10月2日 4日間）
- ・高校生一般ボランティア 2名（7月10日～12月15日 10日間）
- ・大学生一般ボランティア 2名（4月17日～8月7日 7日間）
- ・群馬大学共同教育学部（わくわく教室 プログラミング）
10月22日（高学年，中学年） 10月23日（低学年） 大学生8名
- ・群馬工業高等専門学校（宇宙クラブ） 7月9日 学生4名

5 その他の実施事業等

○視察・講義等対応

- ・群馬大学教職大学院（6月1日） 10名
- ・群馬県プラネタリウム連絡協議会（6月9日） 13名
- ・群馬大学生涯学習概論（8月19日） 6名
- ・前橋市初任者研修「児童文化センターにおける取組と自然体験活動」（11月15日） 24名

○様々な機関・団体等との連携

- ・交通政策課：前橋市交通安全コンクールの作品展示会場・表彰式（12月3日）として提供
：交通指導員50周年式典会場として提供（10月24日）
- ・環境森林課：環境教室（5年生）への情報提供
- ・教育委員会事務局総務課：「わくわく教室・プログラミングでドローンをとばそう！」（11月5日）

- ・教育委員会事務局青少年課：教育支援教室天文教室（令和5年1月26日予定）
教育支援教室環境教室（令和5年2月21日予定）
- ・公園管理事務所：公園環境整備，修繕などへの迅速な対応
- ・群馬県産業経済部：子供たちの体験活動事業「わくわく教室・tsukurunを体験しよう！」
（5月22日実施）の企画，準備
- ・群馬県環境森林部：県こどもエコクラブ交流会の会場として提供予定（令和5年1月14日）
- ・赤城少年自然の家，国立赤城青少年交流の家，公民館との連携強化
※特に，一日自然体験活動における自然体験活動の拠点として支援いただいた。また，赤城山ろく里山学校にて大胡公民館に講師を派遣するなどの連携も行った。
- ・前橋東警察署：外国人留学生を対象とした自転車教室実施（5月24日）
※交通警察署（令和5年1月12日）と前橋東警察署（令和5年1月10日）より感謝状を受領
- ・前橋商工会議所：前橋市発明考案展の作品展示会場として提供（9月23日～）
- ・群馬県立前橋商業高等学校の授業「課題研究」への協力（ペットボトルキャップ回収箱設置）
- ・共愛学園前橋国際大学：「自然体験活動応援隊」（8月7日、8月21日、8月28日）の実施
- ・前橋テクノフォーラム実行委員会，前橋市産業政策課
：「まえばしロボコン2022」開催（8月27日）
：「未来の夢ロボット作り教室」（11月12日、12月10日、12月24日）
- ・宇宙教育センター指導者(宇宙少年団)：わくわく教室として「宇宙ワークショップ」開催
- ・アツイぜぐんま！こどもウクレレ祭 in 前橋実行委員会
：「アツイぜぐんま！こどもウクレレ祭 in 前橋」開催。（9月3日）
- ・太陽誘電株式会社：子供たちの体験活動事業「わくわく教室・親子で社会科見学 デジタル技術で未来の自転車を体験しよう」（10月28日実施）の企画，準備

○「野メダカを育てる会」事務局

- ・前橋メダカの保護・育成と，児童文化センターの環境整備を行うボランティア団体の事務局として，ボランティア活動を推進する（市民に野生メダカを配付5月5日、11月3日）

○その他の教育活動・・・常設展示など

- ・前橋市幼児児童生徒図画作品展
平成26年度より国公立幼稚園・保育所及び希望する私立幼稚園・保育園の作品も展示
- ・理科研究優秀作品展
- ・天文関係展示「プラネタリウム周辺」「ほしのみち」等
- ・環境学習展示「スペースeco」
- ・メダカ等観察コーナー「わくわくアクア」，田んぼ，ビオトープ「むつみ川」
- ・昆虫観察コーナー

○情報提供

- ・情報紙「わくわくキッズ」の発行6回（発行部数：約2,600部/回）
市内全小中学生に配布 他各学校，幼稚園等に掲示
令和3年10月～市立小中学校在籍の児童生徒については，タブレット配信に変更
- ・Webページ等による情報提供
- ・児童文化センターのパンフレット
- ・館内掲示板及びモニター
- ・メディアを用いた紹介（「ぐんま広報」折込『tsulunosPLUS』、tsulunos(GUNMA PREF. STUDIO) 動画配信、学校教育広報『前橋市学校教育』第241号、前橋市商工会議者会報『糸都』、

NHK ほっとぐんま 630、まえばし City エフエム)

○施設管理等関係

- ・「新しい生活様式」に基づく前橋市児童文化センター利用ガイドラインの制定
- ・児童文化センターゴーカート管理棟屋上防水修繕（7月）
- ・児童文化センター外壁落下防止実施計画業務（7月～12月）
- ・児童文化センター風力発電設備改修工事（12月～3月完了予定）
- ・EV エンジン搭載ゴーカート試作車両1台の試走受入れ（ミゼッティ社車両9月29日～12月23日：再掲）
- ・企業版ふるさと納税協力依頼、PR実施（チラシ配布等のべ990枚：5月3日～6月9日）

○危機管理マニュアルの活用

- ・事故や怪我などの発生時に役立てるよう作成した危機管理マニュアルをもとに、館内打ち合わせにおいて全職員で確認
- ・心肺蘇生法、AED、熱中症応急処置の訓練（6月9日）
- ・災害発生時の避難訓練（9月8日：地震・火災発生を想定した避難経路の確認
2月9日予定：地震・火災発生を想定した避難経路の確認及び
消火器の使用法の研修）

○けがや病気等への対応

- ・養護教諭の資格を有する窓口対応職員の配置により83人のけが等に対応した。病院紹介の必要な事例が5人、救急車の要請事例が2件あった。来館者が安心して活動するための支援として有効であった。

令和5年度 前橋市児童文化センター事業運営（案）について

令和5年度の運営では、令和4年度事業の実績と成果、課題を踏まえ、重点施策を次のとおりとします。各教室、事業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策を継続し、感染状況、社会情勢等に応じた柔軟な利用ガイドラインの運用に努めます。

※予算執行が伴うものは、すべて令和5年度当初予算が議決されることを前提としています。

1 交通・天文・環境教室の充実**(1) 交通教室の充実**

① 小学校・中学校・特別支援学校

- ・自転車に不慣れな児童の練習の場を設け、引率者が指導できるよう、乗り方の助言、職員配置等の工夫の継続、指導方法の改善に努める。
- ・自転車に乗る経験が少ない児童のため「親子自転車乗り講習会」を開催し、操作習熟を図る。

② 幼稚園・保育所（園）・特別支援学校

- ・入学後の安全な登下校のため、年長児を対象として道路の歩行を重点に実施していく。

(2) 天文教室の充実

① 小学校

- ・事前打合せによる理科の授業の現状把握と、学校ごとの実態に応じた展開や理科授業者の参加を引き続き促すとともに、充実に向けたタブレットPCの効果的活用方法を含め内容の改善に努める。
- ・移動天文教室では、実際の天体観察を通して宇宙や天体への興味・関心の向上を図り、学校の理科学習の振り返りにつなげられるよう努める。

② 幼稚園・保育所（園）

- ・Web ページでの情報提供や事前打合せ等による適切な番組選択、実態に応じた星空解説に努める。

(3) 環境教室の充実

① 児童文化センターや学校での実施を想定した柔軟な事業対応

- ・実施内容を家庭に周知し、家族と一緒に環境を考えられる教材の充実をさらに進める。
- ・新プログラムも含め学習展開、教材などを指導担当で話し合い、内容の充実を図る。

② 学校の環境教育充実のための外部との連携強化

- ・教科や環境教育に「環境教室」を位置付けるよう引き続き依頼し、ニーズに応じた支援を実施する。
- ・学校教育課と連携し、環境教育主任会への情報提供や教育内容に関わる支援に努める。
- ・環境森林課と連携して専門的知識をもつ担当職員を講師に招聘し、より深い学びを実現していく。

2 自然体験活動の充実**(1) 学校対象**

- ・事前・事後の活動の進め方や有効活用への助言、具体的アドバイスを行うなど、積極的なコーディネートを進める。
- ・指導の展開事例を再検討し、児童生徒がより主体的に取り組めるようさらに内容の充実を図る。
- ・講師や事例の紹介などで、林間学校以外の自然体験活動も推進する。
- ・講師と連携作成した「森のパワーを探してみよう」を活用した実践事例を評価・検証し、さらに内容の充実を図る。

(2) 一般市民対象

- ・業務委託により、自然観察会やネイチャークラフト、親子トレッキング等を実施する。

3 科学・文化芸術活動の充実

(1) クラブ活動の充実

- ・豊かな体験の場、自らの成長を実感できる主体的活動の場となるよう、活動内容の精選や改善を図る。
- ・指導教員の資質向上の場として、学校教育課、総合教育プラザと連携した講師育成や一般講師の人材開拓に努める。

- ・コロナ禍でも、充実した活動を維持し継続するため、活動場所の確保等担当者間の連携を密にする。

(2) 多様な科学・文化芸術に関する教室の充実

- ・子供たちの多様な体験活動の支援を行う市民活動を支援し、連携・協働・情報交流を進める。
- ・環境教育やSDGsを視野に入れた新しい教室の実施を引き続き検討する。
- ・少人数・短時間で効果的な教室が行えるよう、活動内容の精選や改善、支援の在り方を検討する。
- ・実施状況や内容を参加者に伝えるWebページの充実や、閲覧の働きかけを継続する。

(3) プラネタリムの番組の制作と投影

- ・天文現象等の情報交換、時季に応じた星座解説などの計画的な研修により、職員の能力向上を図る。
- ・番組制作に携わる市民との連携を密にして、充実した内容で分かりやすい番組を制作していく。
- ・市民天文教室でのプラネタリウムの活用や、プラネタリウムコンサートの実施方法を引き続き検討する。
- ・天文現象等に触れる機会となる新企画を検討する。
- ・来場者アンケートを実施し、その意見を基に充実した投影に繋げていく。
- ・団体投影の対象を広げていくための周知方法を検討する。

4 遊びの充実と多世代交流の推進

(1) 各種イベントや体験的な事業の推進

- ・子供たちの主体性を育む活動となるよう、企画の見直し、指導内容の検討・確認、講師との事前打合せを十分に実施する。
- ・「わくわくチャレンジコーナー」指導に参画する大学生を募集してコーナーの継続に努め、体験活動を充実させるよう講師研修を継続実施する。

(2) 交通安全に関わる体験の推進・こども公園の活用

- ・歩行や足踏みカートなどを活用して交通ルールやマナーが学べるよう、公園指導員を配置し、引き続き指導の充実を図る。
- ・冒険遊びゾーン内遊具は、職員の日常点検ほか適正な点検・補修を行い、安全な運営を継続する。

(3) 市民力の活用と多世代の交流の充実

- ・ボランティアの会と情報共有や連携を図り、活動の活性化や自主的企画・運営に対して支援を行う。
- ・ボランティアの増員のため、ボランティア経験学生や視察学生等に対し積極的な声かけを行う。

5 その他 施設管理、予算等関係（主なもの）

(1) 安全安心に利用できる計画的な施設の管理・運営

- ・施設・設備全体の管理計画に基づく適切な修繕等の実施（令和4年度各種計画策定中）
- ・外壁調査の結果をうけた壁面補修工事の実施調整
- ・環境教育等への有効活用に向けた休止中水車の修繕実施
- ・プラネタリウムプロジェクターの設備更新の適正な実施（入札、議会対応等含む）
- ・公園管理事務所などの関係課と連携した、安全な環境の維持管理

(2) 予算の適正な執行

- ・広告収入やふるさと納税等の財源確保策に継続的に取り組む。